

令和8年度第1回鳥取県立博物館協議会

日 時 令和8年7月14日（火）

13：30～15：15

場 所 鳥取県立博物館 会議室

○藤原主幹 定刻になりましたので、ただいまより令和8年度第1回鳥取県立博物館協議会を開催いたします。私は、本日議長が選出されるまでの司会を務めます、総務課主幹の藤原といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、委員の出席数を確認させていただきます。この会議は、鳥取県附属機関条例に基づいて設置されております。条例第5条第1項の規定によりまして、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないことになっています。本日の出席委員は全15名中12名ですので、定足数を満たしていることを報告いたします。

まずは、当館の館長、片山暢博より御挨拶申し上げます。

○片山館長 皆さん、こんにちは。お暑い中をお集まりいただきましてありがとうございます。この度が委員さんの任期替えということで、新しく5名の委員さんに参加いただいております。引き続きの委員の皆様、新しい委員の皆様、どうかこの新しい任期の2年間よろしくお願いいたします。

博物館のほうは、たまに新聞紙上をにぎわすこともあります。改修の問題がちょっと滞っているところでございます。それはそれといたしまして、今できることを頑張っていこうということで、今年の春は、日本海テレビさんが主催でありましたが、名探偵コナン展が非常に大盛況で、この博物館のことを多くの皆さんに改めて存在を示すことができたのかなというふうに思っているところでございます。

また、夏休みに向けて、ちょうど開会しております「妖怪・幻獣づくし」、ちょっと毛色が変わった展示ではありますが、我々の年代でありますと、ちょうど人魚のミイラだとか、かっぱのミイラだとか、まことしやかに本物のように子供の頃は雑誌等で取り上げられてどきどきしていた、そんなことを思い出すような展示内容になります。また後ほど御案内いたしますので、御覧になっていただければと思います。また、これで多くの方に来ていただければなというところで考えているものでありますし、秋には、地元の歴史の関係で、名和長年、まさにその名のとおり、今の大山町御来屋の辺り、旧名和町の武将であります。後醍醐天皇を奉じて南北朝の始まりの頃に名をはせた武将であります。その名和家の歴史をたどるような展示も考えているところでございます。

こうやって、一つ一ついろいろな展示をやっていきながら、また、美術の関係も、美術館が倉吉に行かれても、こちらでもちゃんと展示していくんだぞということで、年が明けてからは、旅をテーマとした美術展を展示してもらおうということを計画して

おります。

こうやって多くの皆さんにいろんな分野で楽しんでいただける博物館としてしっかり運営していきたいと思います。委員の皆様方からも御指導、御助言いろいろいただければと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

○藤原主幹 議事に入る前に、申し訳ございませんが、今回は委員の改選後初めての協議会になります。委員の皆さんに自己紹介を、一言ずつで結構でございますので、資料1に五十音順の名簿をつけさせていただいております。この順番で、浅沼委員から一言ずつお願いしたいと思いますが、その前に、14番の森本委員のところの備考欄に、今日欠席というふうに書かせていただいておりますが、急遽御都合をつけていただきまして、出席していただきました。ただ、2時半には次の用事があって退席されるようでございます。

ということで、浅沼委員さんから、お願いいたします。

○浅沼委員 失礼いたします。島根から参りました浅沼と申します。今回は3期目、よく覚えてないですけど再任ということで、またお世話になることになりました。もともとは私も博物館で学芸員として勤めておりましたので、何らかのお役に立てればということでお引き受けしております。引き続きよろしくお願いいたします。

○碓委員 岡山県の山奥にあります高梁市成羽美術館という、美術館なんですが化石も展示している、ちょっと変わった美術館で、そちらの学芸員をしております碓と申します。また引き続きよろしくお願いいたします。

○井上委員 隣の島根県から来ました井上と申します。ふだんは、島根県立の三瓶自然館という自然系の博物館があるのですが、そちらで植物の担当の学芸員と、あと、今副館長のほうもさせていただいております。鳥取県立博物館さんには、今年の当館の夏の企画展でも標本をお借りして、ちょうど7月の頭にも資料の借用にお伺いさせていただいたところです。引き続きよろしくお願いいたします。

○上山委員 失礼します。5番目にある上山と申します。教育委員会が長かったんですけども、近くは文化財課ぐらいから、ちょっとこういう世界に、もういろいろ顔を出させていただきまして、最後は本博物館で退職させてもらっております。昨年、6月いっぱいまでは教育文化財団というところで埋蔵文化財の発掘調査とか、指定管理を受けていた事業なんかをさせてもらっています。どうぞよろしくお願いいたします。

○内池委員 失礼いたします。岡山県から参りました、岡山県立博物館の副館長をしております内池と申します。多分2期目のはずなんですけれども、利用者として来ている長さは結構10年、20年ぐらいになって、利用させていただいたときから、ここはいいとこだなと思っておりました。今日も楽しみに来させていただきました。引き続きどうぞよろしくお願い致します。

○森本委員 2期目に入りました森本といたします。本業は、今、年金生活者でございますし

て、趣味で歴史の映画を撮って、鳥取藩の幕末の映画10本完成させまして、今度は山名400年の歴史を映画にしようかなと思ってたくらんでいるところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○笠木委員 鳥取環境大学の笠木と申します。よろしくお願いいたします。私の専門は植物ということなんですけども、植物というか、植物と昆虫の、花粉を運ぶ昆虫の環境を調べているような感じで、先週なんかは、週5回ぐらい行ったんですけども、2時、3時に鳥取から出発して、大山で朝5時ぐらいから、日の出前後ぐらいから地面にはいつくばって、学生と一緒に小さい花に来るショウジョウバエとかキノコバエといった小さいハエがどういう行動をしているかというような、そんなことをやっている人間です。よろしくお願いいたします。

○加納委員 失礼いたします。今回から参加させていただきます加納と申します。ふだんは、お口は命の入り口ということをテーマにして、お口の健康を、お口ってこんなに大切なんだよっていうようなことを子供たちや保護者の皆さんにお伝えする活動をしております。

博物館さんには、亡き夫の父が生前に収集していましたカメラを25年ぐらい前に寄贈させていただきました。今回のこのお声がけも父がつないでくれたご縁かなと思ひまして、微力ではありますが、手助けということではないですが、お力になればたらと思ってお受けさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○岸本委員 失礼します。鳥取大学地域学部で歴史を教えています岸本といいます。引き続きお世話になりたいと思います。専門のほうは近世、近代史と書かれているんですけども、私は明治維新を中心に研究させていただきましたけども、鳥取に来て、大体ちょうど26年ぐらいになりまして、もうそんなことを言ってもらえずに、最近、鳥取の現代史にまで、ついに手を出すようになりました。まだまだいろんなことを勉強したいというふうに思いますので、先生方のいろんな知識を吸収したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○倉信委員 失礼します。今年度より委員を務めさせていただきます、鹿野学園校長の倉信光人と申します。どうぞよろしくお願いいたします。県立博物館さんには、本当に日頃よりお世話になっておりまして、館内の見学だけではなくて、実は本校も昨年度は化石のレプリカ作りをしたいという担当の教員が言ひまして、それを快く引き受けてくださりまして、型をたくさん準備していただきました。おかげで子供たちはすごく喜んで、大事に大事に化石のレプリカを作って持って帰りました。また学校教育の立場からお話ができたらなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木委員 鳥取市教育委員会事務局の次長兼文化財課長の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。私ももともと鳥取市の博物館の準備室からスタートさせていただいて、その後、文化財課のほうにずっといまして、もう20年以上文化財課にいま

す。県立博物館さんとは、本当に一蓮託生のような形で進めさせていただいておりますのでよろしくお願いします。またいろいろお教えてください。

○森田委員 失礼いたします。今回初めて参加させていただきます、森田しのぶと申します。鳥取洋画家協会の副会長を務めており、東京では自由美術協会の会員として活動しております。先月5月に開催されましたオリ座の際には、博物館の皆様大変お世話になり、誠にありがとうございました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○藤原主幹 ありがとうございます。皆さんの任期はこの右肩に書いてありますが、今年の4月1日から2年間でございますので、よろしくお願いします。

倉信委員の備考欄に書かせていただいておりますけども、倉信委員だけ任命の事務手続上2か月、皆さんとはずれているということと、あと、倉信委員も本日2時半以降別件が入っていらっしゃるということで退席されますのを御承知ください。

続きまして、事務局のほうを私がまとめて紹介させていただきます。

まず、博物館のほうでございすけども、理事監兼館長の片山でございす。

○片山館長 よろしくお願ひします。

○藤原主幹 次の福本副館長は、本日ちょっと所用がございまして欠席でございす。

学芸課長の福代でございす。

○福代学芸課長 よろしくお願ひします。

○藤原主幹 名簿順でいきますと、私が主幹の藤原でございまして、後ろは設備の課長補佐、安達でございす。

○安達課長補佐 よろしくお願ひします。

○藤原主幹 括弧書きで書いております諸遊補佐は、教育委員会の本庁にいるんですけども、博物館の兼務がかかっております。

それから、学芸課の主幹学芸員になりますけども、まず、一澤でございす。

○一澤主幹学芸員 よろしくお願ひします。

○藤原主幹 それから、歴史担当、来見田でございす。

○来見田主幹学芸員 来見田です。よろしくお願ひします。

○藤原主幹 それから、学習支援の樫村でございす。

○樫村専門員兼主幹学芸員 樫村です。よろしくお願ひします。

○藤原主幹 最後になりますけども、県立美術館から、本日は尾崎館長に出席いただきました。

○尾崎館長 尾崎でございす。よろしくお願ひします。

○藤原主幹 それでは、議事に入らせていただきます。座って失礼いたします。

まず、協議事項（1）の議長の選出についてです。資料の3を御覧ください。協議会の規定に、委員の互選によって議長を置くことが書かれてあります。本日、議長を選出していただきたいということでございまして、立候補または推薦がありますでし

ようか。

○内池委員 すみません。

○藤原主幹 内池さん。

○内池委員 このことは、以前ここにいらっしゃった方と色々と決めていただくのが良いと思いますので、上山委員さんになっていただくのが良いではないかと提案させていただきます。

○藤原主幹 今、上山委員がいいのではないかという発言がございました。ほかの委員さんはいかがでしょうか。（全員了解）

それでは、皆さん了解をいただいたということで、上山委員に議長に就任していただくということにさせていただきます。ありがとうございます。（拍手）

そういたしましたら、上山委員は議長席のほうに移動いただけますでしょうか。

早速ですが、議長就任の挨拶をお願いします。

○上山議長 本当に自信はないのですが、今、自己紹介いただいたことを見ると、皆さんいろんな分野での専門ということで、この会議がたしか館長さんにいろいろな意見を申し上げて、博物館運営の参考にしていただくということなんで、ぜひ忌憚のない意見を出していただければと思います。進行については、全く自信はないのですが、皆さんの協力をお願いしたいと思います。

○藤原主幹 この後の進行は議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○上山議長 それじゃあ、協議事項の（１）が終わったので、（２）部会の設置及び各部長の選出について、これは資料４ですね、事務局から説明をお願いします。

○藤原主幹 資料４を御覧ください。部会の設置と部会長の選任についてでございます。

まず、部会でございますけども、この協議会全体が集まるまでもなくて、もう少し機動的に議論を進める場合に部会というのを設置させていただいております。部会は３つございまして、運営部会と教育部会、それと研究部会でございます。それぞれの部会の目的はここに書かせてもらっているとおりでございます。

そこで、本日は、それぞれの部会に属する委員を決めていただく必要があるのですが、これは議長が指名するということになっています。そこで、僭越ではございますが、事務局案を資料の下の方に書かせていただいております。まず、運営部会につきましては、ここのこの名簿でいうと１番から４番までですが、博物館等で実際勤務されている方、もしくは勤務経験のある方がよいのではないかと考えてございます。

次の教育部会につきましては、教育の中でもいろいろあるということで承知しております。教育内容のバランスを取って、この５番から８番の委員の方をお願いしてはどうかということを考えております。

最後に、研究部会でございますけども、９番から１５番ということになりますけど

も、これは当館が所管しています分野、自然と歴史と美術のバランスを取りながら考えるとこういう委員さんに入っていただければ全体としていいのではないかと考えているとでございます。

続きまして、裏面を御覧ください。部会長の選出をその後に決めていただく必要がございます。部会長は規定に基づいて、各部会の委員の互選で決めるということでございますけども、こちらのほうにも事務局案を書かせていただいております、運営部会は上山委員、教育部会は倉信委員、研究部会は井上委員が部会長に適當ではないかなというふうに考えたところでございます。

説明は以上でございますので、御協議ください。

○上山議長 以上、説明を受けたんですが、何か意見はありますでしょうか。

なければ、事務局がいろいろ考えてつくられた案だと思いますので、この事務局案のとおりで……そうか、議長が指名するのですね。

○藤原主幹 はい、そうです。

○上山議長 意見がなければ、この案のとおり指名したいと思います、よろしいですか。
(「いいです」と呼ぶ者あり)

○上山議長 それでは、皆さん大変ですけれども、よろしくお願いいたします。

それでは、協議事項の部会の設置、部会長の選出は資料4に記載のとおり決めさせていただきますと思います。

続きまして、協議事項(3)、博物館振興会委員の推薦について、事務局から説明をお願いいたします。

○藤原主幹 資料5を御覧ください。鳥取県立博物館振興会委員の推薦でございます。振興会というのは、館内でミュージアムショップを運営している団体でございます。その振興会の委員は10名で構成するというのが振興会の規約で決まっていますが、その10名のうち5名を協議会から推薦するということになっています。

ということで、本日、議長も上山委員に決まりましたし、それぞれ部会も決まりましたので、資料5の下のほうに書いてあります、事務局としては、この5名の方に振興会の委員についてもお願いできたらというふうに考えておりますので、皆さんの了解をいただきたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○上山議長 それでは、今、資料5の事務局案、ここに議長、括弧があるのは、上山というのが入るわけでしょうか。

○藤原主幹 はい、そのとおりです。

○上山議長 ということで、5名の皆さんに振興会の委員のほうをお願いしたいと思います。よろしいですか。

じゃあ、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で、協議事項が終わりまして、続いて、報告事項(1)博物館登録

について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○樫村専門員兼主幹学芸員 学習支援樫村のほうから報告させていただきます。座ったままで失礼します。令和5年4月1日に博物館法が一部改正されて、それまで登録してあった博物館のほうも改めて登録する手続が必要となったということで、今、本県では法律改正後に7館の登録が済んでいるんですが、このたび、新たに1館の登録申請があったというような状況です。

それで、博物館協会作成の有識者リストに載っている方、具体的に言うと、渡辺美術館の学芸部長の伊東哲夫さんという方で、元文化庁の調査官であった方に意見を求めるということで、一緒に申請のあった美術館のほうに行ってまいりました。

今回、申請があったのは、2の今回の申請というところにある日南町美術館になります。どのような意見があったかということについては、特に問題ないということになったんですけど、めくっていただいて、3ページを見ていただければと思います。いろいろ書いてあるんですが、一番重要なところとしては、一番上の登録の助言のところなんですけど、美術館活動で第三者的に評価し、支援する上で、運営委員会または評価委員会等の外部委員会を設置したほうが良いという意見がありました。要するに、今、ここで皆様に参加していただいている協議会みたいな外部的に意見を求める組織がまだ日南町美術館のほうにはないということです。こういう方に外部からの意見とか応援とかがどうしても必要だろうということで、このような意見が出たということです。

あと、下のほうにもありますが、あとは防虫とかそういう施設の点検とか、そういうところにちゃんと、もうちょっと工夫があったほうが良いんじゃないかというところと、あと、館内サインがちょっと、今どきスマホを使って翻訳ツールを使うとか、そういうことも十分考えられるんですが、携帯の使用禁止とか通話禁止とかいう表示があったので、そこはもうちょっと書き方を工夫したほうが良いんじゃないかというような前向きな意見をいただいたということです。

全般的には、このような意見はあったんですが、応援するような意見ばかりで特段問題がないだろうということで、今後、手続を進めていくということになります。審査フローでいうと、右側の一番下のところに博物館協議会へ報告というのが、今回、今行っているもので、次の段階で登録決定ということで教育長に起案をしまして、決裁をいただいて登録になるというような見通しであるというのが状況です。

ちょっと1ページのほうに戻っていただいて、もう一つ説明させていただくと、(2)の令和8年6月現在というところで登録博物館数が9になっているんですが、新しく登録済みののが7館、あと経過措置ということで、令和10年3月までにみなし登録ということで、もともと登録してたやつが一応このときは登録博物館とみなされるという期間の、まだ新しく登録してないところが2つありまして、鳥取市こども

科学館と鳥取民藝美術館、この2つがまだ登録手続をしていないという状況です。

こちらのほうで一応通知を出しまして、令和10年3月までに手続を終わりにして登録してくださいということでお願いしたところ、どちらからも口頭で回答がありまして、今手続を進めますので、ちょっと打合せをさせていただきますということで行っています。鳥取民藝美術館のほうでは早速、今年度中に手続を進めていきたいということで、今、お互い意見交換して、スケジュールの調整を行っているというような状況です。ですので、一応、今まで改正前の登録博物館だったところも全部登録される見込みではあるということをお伝えしてます。以上です。

○上山議長 ありがとうございます。今の1ページの類似施設のほうに日南町美術館があるんですけども、これが今申請で、登録博物館に申請中だということでもいいんですか。日南町美術館は類似施設に書いてありますけども、これが今、登録博物館に申請中だということ。

○樫村専門員兼主幹学芸員 そうです、はい。

○上山議長 この意見は反映させた後に登録、決裁。それともどうなるのでしょうか。

○樫村専門員兼主幹学芸員 取りあえず、この意見を言うておいて、今後改善してくださいということをお伝えしていて、特に問題はないということです。このまま登録に進めるというような状況です。

○上山議長 という報告がございましたが、何か御意見はございますでしょうか。

数としては増えてないですね。トータルとしては。

○樫村専門員兼主幹学芸員 そうですね。もともとの登録数よりちょっと減るのはあまりよくないことだとは思いますが、最低限、もともとの数は登録したいというふうには思っていたんですが、それを上回る実績にはなる見込みだというような状況です。

○上山議長 それでは、何か御意見はありますか。

じゃあ、なければ、次の報告事項をお願いしたいと思います。報告事項(2)の博物館事業の実施状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○尾崎館長 最初のものにつきまして、私のほうから着座にて説明させていただきます。資料の1ページをお開きください。経緯をちょっと申し上げますと、美術館が中部の倉吉に開設されたということで、この博物館と美術館と残っておりますが、比較的東部地区では美術の大がかりな展示が減るだろうということで、年に一度、鳥取県立美術館のコレクションをこちらに持ってきて展示をするということをこれから毎年やっていこうということになっております。

その最初のものとしまして、「江戸絵画から〈ブリロ・ボックス〉まで 鳥取県があつめた美術コレクションのバリエーション！」という展覧会を開きました。今年の2月の28日から3月の22日まで、23日間開きまして、内容としましては名品展という形で開催いたしました。話題になりましたブリロ・ボックスというのが、初

めて鳥取で公開することになりました。それから、ほかにも、収集して初公開した作家が幾つか、ここで初公開という作品もございました。

内容的には、まさに江戸絵画からブリロ・ボックスまでで、江戸期から現代まで、そして日本もあれば海外もあるという、鳥取県立美術館のコレクションの多様性というものをそのまま反映させた展示になっております。

それで、日数は少なかったんですが、目標に近い2,600名の方が来場いただきました。それで、満足度につきましても、「とてもよかった」、「よかった」で8割ほどを占めておりまして、一定の評価があったんじゃないかと思っております。

また、このような展示は、来年以降も続けていこうと思っておりますので、そのために美術館から作品を運びまして展示をさせていただきたく思いますので、引き続きどうかよろしく願いいたします。以上でございます。

○藤原主幹 続きまして、3ページを御覧ください。今年の4月4日から開催いたしました名探偵コナンの展示でございます。こちらは、主催は日本海テレビさんでございまして、鳥取県立博物館は共催という立場でございます。3ページの下半分でございますけれども、共催参加の内容というところを御覧ください。（1）番の、博物館からの支援ということで、片仮名のア、イ、ウ、エといった内容を支援させていただいて、その代わりに、事業者には、学生以下の入場料を無料化していただいたという仕組みでございました。

4ページのほうを御覧ください。開催結果でございますけれども、入場者数は31,304人ということでございまして、これは、最終的には当館の歴代5位の記録でございました。アンケートの結果は、「大変よかった」と「よかった」を足しますと94%の方に満足いただいたということですが、記述式の回答の中でマイナスのところを探していってみますと、結局、お客さんが多過ぎて案内が悪かったとか、物販の商品切れだとか、そういった話もございましたけれども、大半のお客さんには満足していただいたというふうに思っております。

参考までに、一番多かった日は、1日で3,100人を超えまして、本当に館内がお客さんでいっぱいだったということを報告いたします。以上です。

○一澤主幹学芸員 続きまして、資料の6ページを御覧ください。令和7年度通常展の展示概要ということで、まずは一ノ蔵「とっとりの自然史」について、自然史担当の一澤のほうから説明させていただきます。座って失礼いたします。

とっとりの自然史の部屋は、令和7年の5月の再オープンから活動ラボというスペースを設置しておりまして、これは県民協力等対象団体である鳥取地学会とか鳥取県生物学会、そういう博物館と協力関係を結んでいる団体の会員を主な対象として、学芸員と一緒に標本を作ったりですとか、標本整理作業や調査研究活動、そういったことを行うスペースとして設けたものです。

その活動ラボの利用状況としまして、その表にありますとおり、鳥取地学会の中の化石部、子供さんたちを中心としたグループですとか、鳥取県生物学会の中の蟲部という、これもやはり小学生、中学生を中心とした企画。それから、骨格標本作製活動としまして、鳥取大学の獣医学科の学生さんや、鳥取環境大学の生物部の学生さん方と一緒に骨格標本を作ったりする、そういった活動、そういったものが主な活動内容で、月ごとに集計したものがこの表です。トータルとして、5月から3月までに延べ48回、263名の人たちがこのような活動として利用したという実績となっております。

あと、ページの下半分で、今月の誕生石コーナーとして、地学のスペースの中で、8月からこういったコーナーを設けて、この表にあるような誕生石、そういう宝石を紹介して、それによって広くいろんな人に、いろんな鉱物に興味を持っていただいたり、地学に関心を持っていただいたりする、そういったものを目指した展示を行っている次第です。自然史については以上です。

○来見田主幹学芸員 続きまして、歴史・民俗担当の来見田のほうから、7ページになりますけれども、2番の二ノ蔵「とっとりの歴史と民俗」と、その下の3の、三ノ蔵の「とっとりの藩と城」について、御報告をさせていただきます。

まず、二ノ蔵の「とっとりの歴史と民俗」というところは、いわゆる常設展示のエリアになっておりまして、その中で、(1)番目、歴史の窓というところがございまして、そこで3か月ぐらいでテーマを替えながら、1年間にわたって4回展示替えを行って、いろいろなものを紹介させていただいております。最初の「ぢげのもん大集合」は、かなり広い分野の中から1点選んで展示品を御紹介するという展示から始まりまして、最後の埋蔵文化財の展示になっておりますけど、こういった考古の部門の展示でございまして、そういったものまで展示を行いましたということになります。

その次が、3番目の三ノ蔵、「とっとりの藩と城」というところになりますけれども、5月から再オープンいたしまして、1階の3番目の部屋というのは長く美術の臨時収蔵庫という形で閉まっていたんですが、そこが再オープンという形で展示室としてまた再利用することになりました。ここでは、とっとりの藩と城ということで、鳥取藩の鳥取城跡があります立地を生かしまして、鳥取のお城の歴史と、あとここの藩主としておりました鳥取藩池田家の歴史、文化を紹介するという展示コーナーに生まれ変わったというところでありまして、今まで近世、江戸時代の展示内容というのは二ノ蔵の中でやっております、面積としてはそれこそ10分の1ぐらいの中でやってきたんですけど、一挙に10倍の展示数が展示できるようなコーナーとして新たに生まれ変わりました。内容としましては1章から3章までになっておりまして、こういった内容になっております。

こちらの展示は2か月ごとに展示替えをするということでやっておりまして、1年間で6期にわたって展示を行いました。大体6期にわたって出した資料の点数が130点ぐらいになるかなと思いますけども、今まで常設展示で出せていた資料の数って本当にごく僅かでしたので、この1年間だけでも、かなりの数の資料を皆さんに見ていただくことができたというところでございまして、現在第7期ということで、明治維新をテーマにやっておりますけれども、こういった形で博物館にあります歴史資料の、特に江戸時代のところのいろんなものを見ていただく場として、この1年間こういう形で進めてきたということでございます。以上、報告になります。

○藤原主幹 続きまして、8ページでございます。令和7年度の博物館利用者の状況でございます。この棒グラフの下表ですけども、この表のポイントは、下から3段目に来館者合計、(A) + (B) + (C) という段があると思います。その備考に、年間目標11万人に対する実績ということを書いております。令和7年度の実績が10万9,358人ということで、11万人に到達することができませんでした。これの主な原因は、4月が1か月休館でございましたので、美術の移転に伴う休館をしておりまして、その分が11万に達しなかったということで御理解いただければというふうに思います。

ちなみに、上段、括弧書きは令和6年度の数字でございます。下のほうの小さい表が4つありますけども、これは、令和6年と令和7年の主催企画展と、主な貸館の展覧会ごとの数字でございまして、上の表の赤い字と合致するような比較表も書かせていただきました。以上です。

○樫村専門員兼主幹学芸員 9ページのところからの、令和7年度学習支援活動の実施状況についてを御覧ください。

大まかに分類したところで説明させていただきますと、一番最初にある移動博物館、出前展示というところは、資料を持って行って、学校等で学芸員が展示を行って、1週間、2週間、決まった期間、資料をお貸しして、授業とかに使っていただくというようなものです。併せて授業をする場合もありますが、そこにも含まれています。それが1年間で27件ということになっております。

次の下のところにある学芸員派遣ですが、これが年間101件となっています。今のところ大体テーマをつくって、チラシを作って、こういう授業ができますということで問合せをして紹介を受けて集まってくるものと、オーダーメイドでこういうことをしてくれないかということで依頼があった場合、その依頼に合わせて授業的なことをする、講義をするとか講演するというのをやっております。これも100件ですので、1人10分、年間10日くらいは学芸員が行っているというような状況です。

あと、めくっていただいて11ページ、教員の日というのがありますが、これも今年7月30日に行いますが、学校の先生に博物館を利用してもらおうというために博物

館を知ってもらおうというような授業をしたり、博物館の展示室で学芸員とやり取りをしてする相談会なんかも行うというものです。これも、去年も行いましたし、今年も行うという予定であります。

あと、普及講座は、基本的に学校の会議室とか講堂なんかを使って学芸員が行うものとか、ほかにも自然のほうは外でフィールドワークなんかもやっております。これも年間49件ということで、かなり行っているというような状況です。

あと、その他のところでは、蟲部の活動なんかもちょっと今年は追加しているというような状況です。

全般的には、学習支援担当というのは私一人ですので、私がプロデュースというか調整をして、各学芸課の学芸員にこの授業とか、出前で授業をやっていただくというようなふうにやっております。各学芸員なんかは研究とか事務的なことをやりながら、外に行って学校での普及活動をするというような状況です。私の計算ですと、1人大体年間、準備とかも含めたら100日弱くらいは使ってる形なんで、各学芸員にはすごいよくやっていただいているし、大変だろうなというふうに思っているという状況です。学習支援の状況の報告は以上になります。

○樫村専門員兼主幹学芸員 続けて、14ページ、インターネット関係の広報のほうも、それでは私のほうから説明させていただきます。

ホームページのアクセス数については、やはり人気のある企画展のときに伸びるという形でありまして、昆虫展のときは、ホームページ、鳥取県立博物館のトップページだけなんで、直接別のページに行った場合は別なんですけど、1万6,000件近くのアクセスがあるというような状況です。

SNSのフェイスブックについても、今、全体的なフォロワー数が、今年の3月の時点で2,526ということで、年間で141フォロワーが増えているというような状況です。

めくっていただいて15ページ、こちらのほうはフェイスブックじゃなくてX、旧ツイッターのほうになりますが、こちらのほうのフォロワー数が、今年の3月時点で2,188ということで、年間207人のフォロワーが増えたというような状況です。毎回、少し分析したところをお伝えしてるんですが、フェイスブックとこのXのほうをちょっと比較していただくと、やっぱりカプコン展のところを特に注目してほしいんですが、Xのほうですとカプコン展のアクセスはすごい多いんですが、フェイスブックのほうはそれほどではないというような状況です。やっぱりフェイスブックのほうは、やってる方の年齢層がちょっと上の感じが、高齢者がちょっと大きめの感じがします。Xですと20代、30代、40代前半くらいまでの方の利用が多いというふうに一般的に言われていますので、やっぱりカプコン展のお客の層と関心と結びついた結果、カプコンのときにXのアクセスとかそういうものが増えたのかなと思います。

特に、Xでの優待の館内見学の説明会なんかの募集もしたということもあって伸びたとは思いますが、やっぱりテーマによって使い分けた投稿というものが今後必要かなというふうに思っております。

あと、ここにちょっと今提示はしてないんですが、もともと鳥取県立博物館の美術だけでInstagramをやっていたんですが、そちらのほうは美術館のほうに移転したので、博物館のほうでInstagramも新しく新設しました。ちょっと統計がまだ始まったばかりですので、次のこの協議会ではまた報告をしたいと思います。現時点ではフォロワー数が770ぐらい、1,000弱ぐらいまで上がってきています。やっぱりちょっと、実は、閲覧数もこちらのほうで登録者数よりは多いということもありますので、こちらのほうも若者の利用が多いということで、このInstagramの利用なんかも今後進めていきたいというふうに思っている状況です。報告は以上になります。

○一澤主幹学芸員 続きまして、16ページ、令和7年度研究成果及び令和8年度調査研究計画ということで、自然史担当について説明させていただきます。

まず、令和7年度の研究成果、論文発表についてなんですけども、論文の個別の説明は割愛いたしますけれども、まず、令和7年度から新規採用になりました宮澤学芸員のほうが、地衣類というちょっとマイナーな生き物を主に研究している人なんですけども、早速いろいろな研究論文を出して、鳥取県内でも精力的に調査、研究をして、いろいろ成果を出されているという状況です。

それから、この16ページの真ん中からちょっと下の辺りで、山陰自然史研究という雑誌にいろいろ出されている論文なんですけども、昆虫担当の鶴主任学芸員が、先ほどもちょっと話に出ました蟲部の小学生や中学生の子供たちと一緒に県内の昆虫についていろいろ調査をして、そういった成果などもこういった形で発表しています。

めくっていただいて、17ページ、18ページです。令和8年度以降の調査研究計画についてなんですけども、長期計画も、中期計画もそうなんですけども、地学分野や動物分野、昆虫分野、植物分野それぞれで、鳥取県内のそういったものを中心に調査研究していくということと、あと、近年にまとまったコレクションなどが寄贈されたようなものについては、そういったコレクションについて整理を進めながらその調査研究を進めていくと。そういった形で計画を立てていく次第であります。自然史のほうは以上です。

○来見田主幹学芸員 続きまして、歴史・民俗担当のほうは、19ページと20ページに記載してございます。自然史担当と比べて非常に何か寂しいなという感じがしますが、研究成果のところに関して少し御説明しますと、先ほど申しました「とつとりの藩と城」の調査研究を基にしまして、鳥取城調査研究年報というものに、江戸時代の藩政期の天守と山上のいろんな研究論文なども成果として出ております。そのほか、博物

館はいろんな資料を寄附を受けておりまして、その整理した資料を、例えばですけども、2番目のところです。北栄町の曲というところに谷本家という大庄屋のおうちがあって、ここから300点弱の古文書を頂いたんですが、その調査を行いまして、地元の北栄町にございますみらい伝承館というところで展示させていただいて成果を紹介したとか、それから、倉吉博物館と当館が共催しまして、当館の古文書解読ボランティアの方5名と一緒に波波伎神社という神社の文書、船越家という家の文書の整理をワークショップという形で行いまして、それらを資料目録として刊行するとともに、展示品として成果を発表したといったような県民ボランティアと連携した活動等も行っておるというようなところが昨年度の成果としてございます。

研究計画のほうに関しましては、基本的に自然史と同じで、寄附を受けております資料の整理を進めておりますことと、あとは、本年度、来年度以降の企画展に向けた調査研究等を中心に進めているというところでございます。以上が歴史・民俗の御報告でございます。

○尾崎館長 美術も載せていただいております。美術に関しましては、特に鳥取県にゆかりのあるということ、こちらの博物館に残しておりますので、それと関連しましたものが多いでございます。先ほども展覧会のほかに、鳥取県、藩絵師のほうですね、これにつきまして、美術館の日本絵画担当のほうで研究しております。それから、工芸につきましても、三浦学芸課長が鳥取県出身の工芸家につきまして研究を進めております。以上でございます。

○樫村専門員兼主幹学芸員 令和7年度鳥取県ミュージアム・ネットワークの事業報告をさせていただきます。22ページを御覧ください。鳥取県内の博物館、美術館などが共同して加盟していただいている鳥取県ミュージアム・ネットワークですが、昨年度の事業としては、研修事業を2つしております。6月4日に倉吉交流プラザでは博物館資料の収蔵についてということで、民俗資料を中心ということで、最近の廃棄問題とかそういうことが起きているということ踏まえた研修を行いました。

第2回目は3月6日なんですが、これ、前年度に引き続き水損資料とか古文書の紙資料を中心とした、災害に被災したときの状況の対応方法が学びたいというような意見が結構ありましたので、奈良県立橿原考古学研究所の主任研究員である中尾真梨子さんをお迎えして、この水損資料の乾燥方法についての研修を行いました。この凍結乾燥に関しては、鳥取県埋蔵文化財センターの秋里分室に機械があるということですので、その設備などの見学なども併せて行って、県内でどのような設備があって、どういうふうな連携ができるかということについても考えられるように情報を共有するという研修を行ったというような状況です。

あと、共同事業としては、倉吉博物館と鳥取県立博物館の共同なんですが、資料調査をしまして、その報告書をつくりたいというような申請がありましたので、その報

告書を印刷する印刷製本費の補助を共同事業として行ったというような状況です。主な事業としては以上になります。

○一澤主幹学芸員 では、続きまして、23ページです。令和7年度資料収集等の状況について、自然史分野について説明いたします。特に特筆すべきものとしましては、23ページの下の方に寄贈資料というのがあるんですけども、その中で、ライオン、雄の本剥製1点というのが、米子のあるおうちのほうにあったライオンの剥製を、非常に立派な剥製を寄贈していただきました。あと、ちょっと右のほうにありますホラアナミジンコ液浸標本3点があるんですけども、これも非常に小さな、水の中に貝、鳥取県初記録となる種類として、こういった標本などを寄贈していただいています。あと、24ページの保管換えのところに昆虫標本3,939点というのがありますけども、鳥取県林業試験場のほうにずっと保管されていた非常に多数の昆虫標本、それを博物館のほうに保管換えという形でいただいたというような形になります。自然史のほうは以上です。

○来見田主幹学芸員 歴史・民俗のほう、まず歴史のほう、例年に比べて数としては少なかったかなというところで、100点余りというところになっておりまして、2番目を見ていただくと、購入資料で上がっております。こういったものが書いておりますけれども、最初の牧野常建の諸画貼交屏風、六曲一双というのは、これは古裂會というところでオークションで買ったものでございますけど、そういったものであるとか、鳥取ゆかりの鍔師、鍔、兜ですね、そういったものを購入しております。あと、その2行目のところ、武信家文書一式というふうに書いてございますが、これは、県中部で反射炉なんかをつくった武信潤太郎という幕末期に活躍した非常に有能な人物がいるんですが、その関係の古文書というのがヤフーオークションで売りに出ておりまして、今までヤフーオークションで、うちは資料を買ったことがなかったんですけども、ちょっとある裏技を使ってこれを買うことができたわけです。割と安く、値段も上がらずに買うことが、競り落とせたというものであります。数としては、ざっと二、三百点のもので、これから整理をしていきますけども、かなり幕末維新史に関わる重要な資料になるかなというところになると思います。

あと、24ページのほうは、寄贈をいただいた資料ということになりますが、今年度は近現代資料で159件の寄附をいただいているんですが、そのうち148件ということで、故畑中少佐関係資料というものを寄附していただいております。皆さん、宮城事件って御存じですかね。別に野球場の話ではないんですけども、ちょうど8月14日、終戦ですね。昭和20年の終戦の前日に玉音放送を阻止しようということで、一部の人たちがある事件を起こして、失敗して自決してしまうんですが、その中心人物が畑中少佐ということでございまして、この方は鳥取にゆかりがあって、資料を博物館のほうに寄附していただいたということで、一部マスコミ等でも取り上げら

れた資料で、そういったものも歴史資料として収蔵することになったということでございます。

あと、もう一つ、民俗のほう66点とありますが、これは樫村さんですか。

○樫村専門員兼主幹学芸員 民俗資料でうちが66点中60点ということで、一番多く寄贈していただいたのは米袋というものです。神社とかに行ったら、おさい錢箱に今はお金を入れると思うんですが、昔はおさい錢でもお金じゃなくて米を持って行って、米をそのさい錢箱に、お金の代わりに入れていたというような時代がありました。そういうときに使っていた袋というものを、博物館だよりという木曜日に連載してるやつで、そういうものはありませんかと書いたところ、たくさん、思ったより反響があって、結局、結論としては60点、一つのコレクション化につながったっていうことがありました。以上です。

○上山議長 じゃあ、かなり膨大な量で、ちょっと2時半まで間に合えば、最初に意見を聞こうと思ってたんですけども、申し訳ありませんでした。かなりの量なんですけども、それぞれのちょっと気になったところとか、質問あるいは意見がございましたらお願いします。

○尾崎館長 すみません、一つ忘れておりました。

○上山議長 もう1個。

○尾崎館長 美術のほうで、美術は美術館のほうで収蔵しておりますが、先ほど申し上げましたように、鳥取藩の絵師とか、鳥取の工芸ですね、東部に関するものは博物館のほうで置いていくということで、そこに幾つか上げております土方稻嶺の牡丹孔雀図と、それから、島田元旦の花鳥図、片山楊谷の龍虎図屏風、黒田稻皐の群鯉図、小畑稻升の群鯉図、沖一峨の、何ていうんだ、これ。（「勿来関図」と呼ぶ者あり）勿来関図ですね、失礼しました。それから、根本幽峨のものなど9点をこちらへ。ですから、江戸絵画関係ですね。それは収集いたしております。失礼いたしました。

○上山議長 ありがとうございます。かなり膨大な量なんですけども、いろいろ、皆さんにはせっかくおいでいただいたんで、発言をお願いしたいと思いますけども。何か気になってるところとかあれば、質問とかあれば。

○井上委員 お願いします。

○上山議長 じゃあ、井上様。

○井上委員 すみません、井上です。説明ありがとうございます。

私からは2点教えていただきたいことがあります。まず1点目は、春の「名探偵コナン」についてです。共催事業ということで博物館のほうが主体ではないですけど、恐らく、ふだん博物館には来られないような客層の方がたくさんいらっしゃって、博物館のことを知っていただくよい機会になったことと思います。まだ夏休みは始まってないので、これからかもしれませんが、例えば博物館にはあまり来られたこと

がない客層の方が来られて、その方たちの一部でも、その後、博物館を利用してくださるといった例はないでしょうか。こういったキャラクターものを企画すると賛否両論あって、いい面、悪い面、両方あるかと思います。いい面の一つとして、今まで来られなかった客層の方が、新しく博物館に来てくださるところはメリットかなと思います。企画展が終わった後で、コナン展に来て博物館が面白かったから、また来ましたよ、みたいな声があるのかを教えてくださいたいというところが1点です。

それから、もう1点は全然違うのですが、23ページの資料の収集状況のところなんですけど、上の方の1番の表の中で、本年度、当該年度の中で減少点数が一部記入されているのですが、減少した理由を教えてくださいたいと思います。以上です。

○上山議長　じゃあ、まずコナン展の関係から。

○藤原主幹　コナンの関係ですけども、コナンのときにいらっしゃって、その後っていうのは、ちょっと、残念ながらリンクした声は拾えてないですが、確かにコナンの会期中は県外者もたくさん来ていただいて、作家の青山剛昌先生は鳥取県出身なんですけども、作品自体はもう世界的なものですので、県外からもたくさん来ていただいて、当館のことを知っていただいたということは言えると思いますが、ちょっとその後のっていうところまでは把握しておりません。

○上山議長　あともう1点が植物の。

○一澤主幹学芸員　23ページの減少点数です。これは植物の分野なんですけども、ものとしては木のほうの亚克力樹脂封入標本です。これはちょっと扱いとか、大分年数がたってしまっていて、非常に色がほとんどなくなってしまうと、資料としてはもう使えなくなってしまうと。そういった判断で、一応、廃棄というような、物理的にはまだあるわけなんですけども、一応、その登録からは外したと。そういった処分になっております。

○井上委員　分かりました。先日お話ししてくださったやつですね。

○一澤主幹学芸員　そうですね。

○井上委員　分かりました。ありがとうございました。

○上山議長　ありがとうございます。そのほか意見はございますでしょうか。笠木委員さん。

○笠木委員　笠木です。すみません、ただの興味なんですけれども、23ページの購入資料で、歴史の武信家文書ですかね、これはヤフオクで購入されたっていうことなんですけども、これ、単純な興味で、200点っていう数も、ちょっとどういうものかは全然私分かんないんですけども、点数が多いですし、幾らぐらいしたのかなって興味があるのと、あと、何かヤフオクとかだったら、信憑性っていうか、よくある偽物じゃないとか、そういうような、素人の単純な興味なんですけど、ちょっと教えてくださいたいと思います。

○来見田主幹学芸員 ありがとうございます。売り方として、今回の武信家文書に関しては、もう束で一括の状態のものとして売りに出されていたところだと。扱っていたのは、実際店舗でも販売をされているような古物商というんですかね、そういう免許を持ったところの業者さんが出しておられたものになっておりまして、かなり細かく画像が出されてましたので、ホームページ上に。なので、それらを分析して見たところ、これが偽物である可能性は極めて低いだろう、実際は現物を見て確認するのが大前提なんですけど、それを問い合わせたところ、それはお断りするということだったので、実物は見れなかったんで、あくまで画面上での確認にとどまったんですけども、かなりの点数、そうやって写っていたのと、その中身的にもこういったものが偽物であるという確率はかなり低いという判断で、一応、その業者さんを通じて、そういう免許を持っているというか、業者さんというのが鳥取市内にありまして、そこを通じて幾らまでならうちは買いますよって言って、一応、契約を取り交わして、それより金額が上がれば買えないわけですけど、一応、ほかに買手がつかなかったということで、それで、うちが提示した金額で購入することができたということで、無事に入手できたということ。

金額は幾らぐらいだったかな、10万ぐらいだったかな。すごく安かったです。もう少し上がるかなと思った、そういったような内容でした。

○笠木委員 分かりました。

○上山議長 よろしいでしょうか。ありがとうございました。

○佐々木委員 いいですか。

○上山議長 じゃあ。

○佐々木委員 今のお話を聞いて、入手できてよかったなっていうところで、武信家文書は、家自体がどうなってるかさっぱり分からない部分もあって、なかなか流通に出てくると自体がないと思います。これ、当然ながら、こういう買い方だから、どういう経路で来たか分かんないですよ。

○来見田主幹学芸員 そうですね。確認しましたが、やっぱりそういう、市場みたいなところで買われたものらしいので、元の所有者が誰だとかは、そういう伝来を追うことはできないみたいです。

○佐々木委員 ありがとうございます。

○上山議長 そのほか。浅沼さん。

○浅沼委員 すみません、参考までに教えていただきたいんですけど、今の23ページの購入資料なんですけど、大体、年間購入費ってどのぐらい予算を組んでいますか。

○来見田主幹学芸員 歴史・民俗のほうは約150万円、毎年そういう枠があります。

○浅沼委員 自然とかは。

○一澤主幹学芸員 自然の場合は、こういう購入とか製作企画で使うものについては、大

体合わせて、毎年、予算要求のときに、一応、こういったものを、剥製を作りたいですとか、こういう化石を買いたいっていうのを目星をつけて、見積りを取ったりして、それに応じて予算要求をするんですけども、例年百数十万、合わせて百数十万ぐらいの金額です。

○上山議長 よろしいですか。

○浅沼委員 ありがとうございます。

○上山議長 そのほか。碓さん。

○碓委員 すみません、2点あって、インターネット関連なんですけども、インターネット、SNS特にちょっとお伺いしたくて、SNSを使って展示の企画とリンクしてるっていうのは分かるんですけども、2種類お客様がいると思っていて、1種類は、ほかで、広報で聞いて、例えばポスターを見たとか、テレビでちょっとCMを見たとか、そういうのがきっかけで、じゃあ行ってみたくてSNSで調べるとか、それをきっかけに来館するっていう人と、純粹にSNSで知ったから来館しましたっていう、純粹にSNSきっかけで来られる方ってどれぐらいなのかなっていうのと、あと、年齢層が、多分、おっしゃってましたけど、フェイスブックとXとインスタと全然違うと思うんですけども、そういった来館者層とどういうふうにリンクしているのかを实际調べたりはされてるんでしょうか。

○樫村専門員兼主幹学芸員 来館者のアンケートで、通常と特別なときに何で知ったかっていうのをちょっと調べているので、ちょっと今手元にないですけど、割合は出せると思う。最近の見た感じだと、SNSで直接情報を仕入れてくる人も、今回の妖怪・幻獣づくしですと2割くらいは結構いるので、その比率っていうのは、ちょっと、かなり低くはないだろうとかいうふうに思ってます。でも、まだ全般的にはSNSで直で情報を収集するよりも、看板、チラシ、新聞とかのほうが多いっていうような状況だとは思います。

○碓委員 ありがとうございます。

あと、すみません、もう1点、23ページの標本なんですけども、地学の表のほうでエディアカラと恐竜ってあるんですが、これ、流通しているもの。

○来見田主幹学芸員 そうですね。業者名は忘れちゃったけれども、普通にというか、ちゃんと売って、販売されているやつを購入してます。

○碓委員 業者さんからの購入。

○来見田主幹学芸員 そうですね。

○碓委員 分かりました。ありがとうございます。

○上山議長 すみません、何か、エディアカラ動物化石ってよく分かんないんですけども。

○碓委員 先カンブリア紀の、物すごく古い時代の化石なんですけど、あんまり流通しないというか、ちょっと……。 (「怪しい」と呼ぶ者あり) いや……。

○来見田主幹学芸員 確認します。

○上山議長 すみません、ありがとうございました。

そのほか何か御意見よろしいですか。じゃあ、加納さん、お願いします。

○加納委員 先ほどのSNSの活用、活用っていいですか、関係の中でその辺がちょっと、今、結構若い年齢層の方々、どこかに行った、それをSNSで発信をして、そこから集客につなげるっていう形がもう日常化しているとか、となっていると思うので、こちらの、本当に興味のあるいろんな楽しい展示会とか企画展とかされていて、そういったことを来館者の方に、若い、来られた感想とかそういうのをSNSでリアル動画をつくって発信するとか、そういうこともぜひ行ってくださいっていうようなPR活動っていうのも入れると、そこからまた広がっていくのかなというふうにちょっと感じました。

○上山議長 もっとインスタを活用してっていう感じ。

○加納委員 そうですね。せっかく活用されているのであれば。

○上山議長 その辺りはいかがですか。

○樫村専門員兼主幹学芸員 これからちょっと工夫、一旦工夫をしていろいろやるんですけど、実はほぼ、うちの非常勤職員でそういうのが得意な人に頼んでいるんですが、あまり頼み過ぎると大変だなと思いつつ、2人で相談しながらちょっとやっていますので、できる範囲で改革は進めていきたいなと。でも、ほぼ1人でこのSNS3つ、私もやりますけど、ほとんどやってもらってるんで、そこは相談しながら、工夫はもうちょっと進めたいと思います。

○片山館長 本格的には不是ですが、昨年やったカプコン展のときに、その作家さんに来ていただいてトークをしていただいたんですけども、それに参加するに、それは非常に人数限定でやったんですね。それについては、来て宣伝してくれと。それこそ自分のアカウントで発信してくれと。それを1つ参加条件に入れて来ていただいて、プレミアのある行事に集客したということを、非常に試行的ですけどもやった実績はありますので、ちょっとそういうのを企画展のたびに何か仕掛けれることがあればやってみてもいいのかなと。今伺って思い出しましたので、これからやる担当には考えてみてというふうにしたいと思います。

○上山議長 お願いします。1人に集中しないように、今の話で大変でしょうから。

そのほか。岸本さん。

○岸本委員 すみません。今話題に出てきたヤフーコレクションとかなんですけど、ほかで同じようなことを聞いて、そのときの何か反省をおっしゃってたのが、結構値段を上げてるものは同じ同業者だとか、同じような人がアクセスして同じように、何でなかなかひかないんだろうっていう感じで、今のところは県だけが公式にやってるかもしれないですけど、そのうち、もしかしたら市のほうで始めたりとかすると、お互

いにつり上げてしまうことになるので。ちょっとその辺りは、何か連絡を取り合ってもいいのかなというふうなことをちょっと思ったのが1点です。

それから、あと、質問なんですけども、1つは、いろんな企画をずっとされてるところで、今、鳥取県教育委員会とかが、やってみよう！でー（day）っていう形で、体験型の日を設定して、そこに子供たちを参加させるような、やってると思うんですが、博物館もそういうところにやっぱりかなりかんでるのでしょうか。というのがちょっと質問で、それから、あと、もう一つは、ミュージアム・ネットワークについてのちょっと質問なんですけども、補助金とかを少し頂けるような企画っていうのは、1館のみではなくて、複数の館がかんでれば、例えば、大学がそこにコラボして何か共催でやる場合でも使えたりするのでしょうか。その辺りを教えてもらえればと思います。

○上山議長　じゃあ、最初、やってみよう！でー（day）って5月の連休とか、鳥取市がまとめて。

○岸本委員　そうです、はい。

○上山議長　は、何か企画とかありますか。

○藤原主幹　そのときにいらっしゃったら、保護者の入館料を減免させてもらってます。子供はもともと無料です。

○上山議長　それと、あと、ミュージアム・ネットワークの共同事業の要件。

○樫村専門員兼主幹学芸員　それは、加盟館が複数館入ってる共同事業だったら補助はできるってことです。PRするチラシをつくったり、あとはその報告書をつくったりとか、あとはイベントとか講演会とかをするものの補助はできます。

○岸本委員　分かりました。ありがとうございます。

○上山議長　よろしいですか。そのほか。すみません、後ろの時間もちょっと気になりつつ、皆さんにお尋ねします。森田さん、よろしいですか。

○森田委員　初めて参加させていただき、皆様が非常に熱心に研究や活動に取り組まれている姿に深く感銘を受けました。

最近、こちらの博物館の取り組みが新聞やテレビなどのメディアで度々取り上げられているのを拝見し、大変素晴らしいことだと感じております。

ただ、これほど有意義な研究事業を行っているにもかかわらず、参加人数が少ない点が非常に惜しまれます。素晴らしい活動をたくさんされているからこそ、より多くの方にご参加いただけるようになれば、さらに良くなるのではないかと感じました。以上です。

○上山議長　ありがとうございます。内池委員さん、何か。

○内池委員　岡山県立博物館と同じかも知れませんが、学芸員の仕事は、実際に見えている時間に加えて準備の時間が必要になってきます。たぶん、鳥取県立博物館の学芸員

の方も、時間外が多いのではないかと心配しております。

資料調査や教育普及活動への対応等、多くの業務がある上に、一ノ蔵、二ノ蔵、三ノ蔵という形で、鳥取藩や城の展示も充実させた上で、展示替えの改修も結構多いように感じました。無理があるようだったらまた改善していけばいいのではないかなというふうに思っただけです。以上です。

○上山議長 ありがとうございます。そのほか御意見。また最後、時間があれば伺いたいと思います。

それでは、続いて、報告事項の3、博物館事業に係る令和7年度決算及び令和8年度予算について。ですから、今の事業の決算について、事務局から報告をお願いします。

○藤原主幹 資料8を御覧ください。まず、1ページ目は令和7年度の決算でございます。数値については御覧のとおりでございます。予算のところ、補正予算額というところは、これは空調工事の入札残を減額補正したものでございますし、次の流用額の220万につきましては、物価高騰等に伴う事務費の不足を教育委員会全体の事務費から補填してもらったものです。その予算に対する決算額が御覧のとおりということでございまして、翌年度に220万円繰越しをさせていただいておりますのは歴史・民俗事業でございます。これは、鳥取藩資料の補修委託をしていました委託先の方が体調不良になったものですから、一旦繰越しをして、令和8年度に別の事業者になるかと思いますが、使いたいということで繰越しをさせていただきました。下のほうの表は、これは、空調工事の金額でございますけども、令和6年と7年の2か年にわたる継続費を組んで、その7年度分の金額をここに書かせていただいております。

めくっていただきまして、次とその次のページが令和8年度の当初予算でございます。最後のページの合計のところでいきますと2億4,100万円ということで、括弧が前年の金額でございまして、2億1,900万円から2,100万円の増でございます。中を見ていきますと、まず、上から2つ目の2番の博物館運営費のところでございます。(4)の2つ目の中ポツで、備品(冷凍庫、乾燥機)購入ということを書いておりますが、これはエキヒュームSの販売終了に伴う対策の一つとして、防虫、防カビを冷凍と乾燥で対応してみるということで、こういった機械を買おうというものでございます。

3番の自然史事業の中で、シルバーウィーク特別展示というのがございまして、これは例年ないんですけども、令和8年度のシルバーウィークの間がちょうどうちの企画展の谷間になってしましまして、シルバーウィークに何もしていないということでは県民の方に申し訳ないので、あまり予算をかけずにではありますが、新しく入った資料のお披露目展をさせてもらおうということでございます。

それから、その次の4番の歴史・民俗事業費につきましては、展示ケース照明のL

ＥＤ化ということで、ここが２、２８０万円余の予算をこの中で計上しておりまして、この４番の歴史・民俗事業費が、例年に比べてそれぐらいの金額が増えているとでございまして。５番、６番は省略させていただきまして、さらにその下に、米印で上表に加えて、博物館以外のところで博物館で使う予算を計上してもらっております。まず、教育人材開発課というところで、ここは教育委員会の人件費を一括して持っているところとでございまして、うちの看視員さんなり受付員の人件費をここで計上してもらっております。

それから、教育環境課というところが、これが教育施設の施設設備関係の整備の予算をまとめて計上するところとでございまして、そこで照明のＬＥＤ化工事の１期工事分、工事費を８、１００万円、これは博物館の管理ですね、事務室関係を中心になりますけれども、そのＬＥＤ化工事を今年度既に発注しております。あわせまして、来年度の２期工事に向かいまして、設計も今年度３９９万８、０００円で委託するという予定になってございます。以上です。

○上山議長 ありがとうございます。今の説明について、御質問等ございますでしょうか。

○森田委員 いいですか。

○上山議長 お願いします。

○森田委員 ＬＥＤの件なんですけれども、展示室のＬＥＤっていうのはどういうことなのでしょうか。

○藤原主幹 展示室は２期工事です予定していますので、来年度うまくいけば実施します。

○森田委員 いや、もうぜひぜひお願いします。

○安達課長補佐 スポットライトで基本的に展示品とかを照らしていくんですけど、今この工事でやろうとしてる部分は、建物付随の照明と、展示品を照らす、ちょっと演色性のいいものというのをちょっと分けて発注してまして。

○森田委員 実は、私が５月に展覧会を開催させていただいた際、展示室の照明が非常に暗く、作品の色が黄色がかって見えてしまうという問題がございました。その結果、作品を本来の姿でしっかりと鑑賞することが難しい状態でした。

今後、県展や市展などの大規模な展覧会は、鳥取市ではこの博物館を会場として開催せざるを得ない状況です。そうした機会に、出品された作品が本来の色彩や形を保ち、できる限り最善の状態に鑑賞していただけるよう、照明環境を改善していただけますと幸いです。

○藤原主幹 これまで展示室は、スポットライトを中心に照明を使っていたと思うんですけども、蛍光灯がなくなってという機会を捉まえて、そもそも天井裏についているこれまでの蛍光灯をＬＥＤ化にするということと、スポットライトをＬＥＤのスポットライトに買い換えるということを並行して進めております。

○森田委員 ぜひ早急なご対応をお願いいたします。以前、当博物館で県展などの審査を行った際、こちらで選考された作品を他館へ搬出したところ、照明の違いによって色味が明らかに異なって見え、審査の妥当性に関わるような議論が生じた過去の事例がございます。厳正な審査環境を確保するためにも、照明のLED化はできる限り早期に実現していただきたいと思います。

○上山議長 そのほか。

ちなみに、資料8の220万の流用額と翌年度繰越額は合うんですけども、これはたまたま合ったっていうだけの話で関係ないですね。

○藤原主幹 はい、たまたまです。

○上山議長 たまたまですね。すみません。そのほか。碓さん。

○碓委員 すみません。ちょっとまた御質問なんですけれども、当館でもちょっと苦しんでるところがあって、出金関係のことで、印刷費と、あと、展示をつくる製作費ですとかが今3割増しぐらいになってまして、その辺りの影響ってこちらはどんな感じなんでしょうか。

○上山議長 物価高騰対策みたいな。

○碓委員 そうですね。

○上山議長 影響はありますか。

○福代課長 今のところ、如実に印刷製本費で上がってるというのはないですけどね。

○碓委員 結構、うちは3Dプリンターで標本をつくったりもするんですけども、3割増しって言われてしまったり、プリンターが、インク自体もすごく値上がりしていて、もう単純な話でいうと、ハレパネ1枚もすごく高くなってしまっていて、高って今思ってるそこなんですけども。

○樫村専門員兼主幹学芸員 学習支援のほうで、土器のパズルとかそういうのをやっぱり作るときには、値段が急激に上がっていて、ちょっと困ったことが去年の終わりぐらいから出てきてはいます。うちのほうは。印刷はそうでもないですけど、標本とかそっちの高めのところがやっぱり高くなってはきています。

○碓委員 ちょっと物価対策を少し。何かホルムズ海峡がまた封鎖されちゃったりとかもあるんで、なかなか難しいなと思ったり。

○上山議長 分かりました。そのほか。なければ次の報告事項に進ませてもらいたと思いますが、よろしいでしょうか。

次、報告事項4の博物館改修に係る動向について、事務局のほうから説明をお願いします。

○藤原主幹 資料9を御覧ください。博物館改修に係る動向ということでございますが、初めての委員もいらっしゃると思いますので、簡単にこれまでの経緯を説明いたしますと、当館は大規模な改修工事を必要としています。その内容は、1つ目が耐震改修でござ

います。2つ目が老朽化設備の更新、そして、3つ目が消防法だとか建築法などの法律への適法工事でございます。工事の進め方もいろいろあるわけなんですけども、令和6年1月に能登半島地震がありまして、まずは耐震工事を県直営で急いでやりましょうという方針が出ました。ただ、それ以外の設備の更新だとか、そういったものは時間を要してもPFIだとか民間活力を検討するということになっていました。

令和6年の秋に、その時点の計画の概要がまとまりましたけども、約38か月の工期、そして、約45億円の工事費が必要ことが分かりまして、これが県民の理解が得られるかどうかということと、加えて、先にお向かいの仁風閣さんが保存修理に入られましたので、この鳥取城跡の観光振興という面から2か所が同時に休むことがいかなものかということを考えまして、現時点では具体的な改修工事に入れていません。

という背景があつての資料9でございます。昨年の12月22日に6年度の決算審査特別委員会、これは県議会の委員会でございます。そちらのほうから指摘を受けました。この四角囲いの最後の1行の最後のところに書いてありますけども、要するにスピード感を持って検討を進めなさいという意見でございました。これを受けまして、その下のほうですけども、今年の4月11日に地元の日本海新聞さんでこのような記事を掲載されました。耐震改修の議論が進まずということで、県内最後の旧耐震基準施設ということの新聞報道でございます。

めくっていただきまして、2ページ目でございますけども、4月14日に知事の定例記者会見がございまして、14日の定例記者会見で知事の方針発表を受けて、4月15日の日本海新聞でこのような、資料のような新聞記事が報道されました。設備の改修だとか法の適合工事をPFI等の民間活力を利用した方法で実施できるのかどうか、事業者へ追加ヒアリングを行うというふうなもので検討を前倒しするようにということで、知事が発表をされました。

それを受けまして、3ページ目でございますけども、県庁の担当課のほうで事業者のヒアリングを行われまして、今度は5月28日に第1回の県有施設・資産有効活用戦略会議、これは県庁内の会議でございます。それが行われまして、その事業者から聞き取りをされた内容が報告されました。それが下半分の報告2の部分でございます。赤字で、矢印のところに書いてありますけども、耐震改修・設備工事はPFIとか民間活力の工夫の余地が乏しく、PFIは物価上昇の影響が大きい。要するに早くやることが重要だということと、中を細かく見ていきますと、耐震改修と設備工事は一体施工のほうが効率的だというふうな内容でございました。これが5月28日に有効活用戦略会議が開かれまして、その翌月の6月9日の県議会の常任委員会でこの内容が報告されました。

最後のページでございますけども、その経緯を受けて、6月24日に、6月の県議

会で、一般質問でこのようなやり取りがありました。若干抜粋しておりますけども、議員のほうから現在の進捗状況を教育長に問われまして、教育長が下線を引いているような答弁をされたところ、議員が、次は現在想定しているスケジュールと建設費、再試算の時期について再度教育長に問われましたが、教育長のほうは、そういったものは次は基本設計だとか、文化庁協議、実施設計の段階を踏まえて見えてくるものですというふうな内容を答弁しております。で、議員のほうは、今度は知事にどうなのということ問われましたけども、知事は、アンダーラインを引いておりますけども、今後の方針が示せるかどうかというのがまず当面の焦点じゃないかなと思うと。これは、先の新聞報道によります、今度の秋をめどに云々というところを指しているものだというふうに思います。

次は、基本設計の予算要求をしたいというふうなことを、最終的なゴーサインが出れば進むわけでございまして、博物館としては県庁の営繕課というところと相談しながら検討を進めさせていただいております。

なお、余談になりますけども、この資料の1ページ、2ページの新聞記事は、ちゃんと著作物の使用の許可を取って、今日も後ろに並べていただいておりますけれども、きちんと手続をして資料に掲載しておりますことを余談として報告させてもらいました。以上です。

○上山議長 ありがとうございます。

じゃあ、早ければ秋頃という感じですかね。分かんないですね。新聞に書いてあるのはそうですね。

何か御質問とか御意見とか、ちょっと新しく委員になった方は分かりにくいところが多々あると思いますし、こういう状況だということ御承知いただけますでしょうか。

じゃあ、すみません、何か先を急ぐようで申し訳ないですが、次、報告事項5、鳥取県立美術館の運営状況等について、事務局のほうから説明をお願いします。

○尾崎館長 美術館のほうも、去年の3月31日に開館しまして1年以上経過いたしました。非常に、スタートダッシュというか、幸先のいいスタートを取りまして、御存じのように年間20万人というのを目標にしておりますが、去年は31万人ほど入りました。

ごめんなさい、資料は10を御覧ください。人数が増えていった状態っていうのはそこに書いてございますが、展覧会のほうも4本入りましたし、それから、立地が横に非常に広い緑地がございますので、そこで、例えば焼き鳥のフェスティバルですとか、いろんなことがあるときに必要が入ってまいります。それから、昨年度は、実は、秋の花鳥画展という展覧会で、彬子女王をお招きして特別講演会をしたりとか、特に、非常にやはり、次々に話題になるイベントも進めました。それで、この3月31日に

開館いたしまして、もう6月のうちに10万人を突破いたしまして、2月には30万人を達成しております。それで、展覧会といたしましても、下に書いてますが「アート・オブ・ザ・リアル」という開館記念と、それから、水木しげるの妖怪百鬼夜行、こちらでも、美術館のほうも、鳥取県はまんが王国ということで、毎年こういった漫画に関係ある展覧会をやっていこうということになってまして、そういったものを行います。それから、花鳥画、それから、現代美術の展覧会、4つの展覧会を行いました。

次のページを開いていただきますと、開館2年目の状況につきまして申し上げますと、まず、「ポップ・アート時代を変えた4人」という展覧会を開催いたしまして、これはブリロがございましたので、ポップアートを少し紹介しようということでしております。それで、現在開いておりますのが、「マンガを拓く 谷口ジロー展」という、鳥取は三巨匠といって、水木しげる、青山剛昌、谷口ジローという3人の漫画家を輩出しておりますが、今年は谷口ジローということで、今年は「遙かな町へ」という映画がもうすぐ公開されます。これが谷口ジローの原作で、倉吉を舞台にした物語だということ、数日前にオープニングがありましたけど、そのときはこの映画に主演した人たちが来たりとか、非常にこれも盛り上がりました。

それから、今年は前田寛治の生誕130年になります。それで、これは、前田寛治といえば鳥取県出身の日本を代表する近代洋画家の巨匠の1人でございます。それで、これにつきましては、それまでもうきちんと検証していかなきゃいけないと考えておりまして、幸い非常に大きな美術館なので常設展示でも紹介できます。それで、この前田寛治の展覧会は、実は、これもまた、7月の初めに東京のステーションギャラリーといいまして、東京駅の構内にありますギャラリーで既に展覧会が始まっております。それで、東京では18年ぶりになります。この展覧会は、和歌山の近代美術館にも巡回いたしますので、これを機に前田という非常に希有な才能を関東圏、関西圏でも紹介して、作家の顕彰を進めたいと思っております。

それから、最後に、「ゴジラ生誕70周年」というちょっとポップカルチャー系の展覧会といたしまして、ゴジラをテーマにした展覧会というのを考えておりまして、その4つが今年の大きな展覧会になっております。それで、先ほど申し上げましたとおり、この博物館でもまた2年目に、今年は、次は旅をテーマにした展覧会を考えておりますが、そのコレクションから名品をよりすぐってこの博物館でも展示をするということを考えております。

それで、今申しましたように、非常に大きな常設展示室が5室ございますので、ここを使いまして、非常に、今まではできなかったたくさんの作品を紹介しております。それと、この美術館の特徴としまして、アート・ラーニング・ラボというA.L.Lという取組もしておりまして、これは美術を通した学びということで、これはオール

ということですので、子供だけではなくて、大人の方も、いろんな方に対してこういったことをやっていこうということを進めておりまして、その中でも大きな取組としては「MUSEUM START BUS」といって、県内の全ての小学校4年生をバスで招待して見てもらうという、これが県内124校中117校という、ほぼ、9割以上の子供たちが来てもらいました。それで、そこで、ファシリテーターというんですけど、作品と子供たちを結ぶ解説者ですね。そういった人を通して、それが県外の場合もありますが、ボランティアの方がやる場合もあるんですが、非常にその普及的な事業はずっとやっております。

そういったことで、この普及事業というのは、この美術館、要になっておりますので、今後続けていきたいと思っておりますし、そういった意味で、この鳥取県立美術館は、普及事業というのは全国的にも注目されておりますので、これも進めつつ、今年度もやっていきたいと思えます。やはり、昨年が非常に多かったっていうか、去年からしたらちょっと人数が、大分減っておりますが、そこら辺は考えないといけないと思っておりますが、いろんな新しい取組をしながら、こっちの博物館とも協力して美術館の活動を続けていきたいと思っております。以上でございます。

○上山議長 ありがとうございます。何か御質問等ございますでしょうか。

今、このボランティアのファシリテーターって何人ぐらいいらっしゃるんでしょうか。

○尾崎館長 TMOA+というのがありまして、これがいわゆるボランティア組織なんですけど、これが300名以上と聞いております。その中でいろんなチームに分かれまして、やりたいことがいろいろあって、それで、その中でこういったファシリテーターのことをやりたい人、このファシリテーターがやりたい人っていうのは、やりたいっていうだけじゃなくて、きちんと学芸員が講習みたいなのを何度かしまして、ある程度作品とか作家、それから、美術館について理解していただいた上でやっております。それで、今見ていますと数名かなり、しっかり毎回来ていらっしゃる方もいらっしゃるって、割と根つきつつあると思えますし、そういった意味では地域に溶け込んできたという気がいたします。

○上山議長 ありがとうございます。そのほか御質問よろしいでしょうか。

じゃあ、すみません。時間が押して申し訳ないですけど、最後、資料11の報告事項6、博物館の組織体制及び人事異動に伴う事務局職員の変更について、説明をお願いします。

○藤原主幹 資料11を御覧ください。まず、組織体制でございまして、改修事業が停滞したというようなこともございまして、(1)、(2)のとおり、改修担当が減らされてしまいました。その関係で、トータル、一番下のところになりますけど、正職員が1名減というところでございます。

次のページは、参考までにこれまでの組織の沿革をまとめさせていただきました。最後の最後のページでございますけども、人事異動に伴う事務局職員の変更についてということで、色をつけた部分に変更した部分でございます。本日、所用があつて欠席してしまいましたが、福本副館長が着任しておりますし、あと、大きなところでは、これまでは植物の専門でありました清末が退職いたしまして、今度は歴史・民俗の中に美術工芸の担当ということで、荒井学芸員を新規採用しております。あとは、この色をつけたところが変わったところということで御理解ください。以上です。

○上山議長 ありがとうございます。

最初の委員名簿で、博物館の総務課で括弧で諸遊さんが事務局に、減員だつていうことで、これは、ここから落ちるわけですか。

○藤原主幹 そうです。この課長補佐、(1)、1名が減員つていうのがまさに今の話です。

○上山議長 ああ、括弧で。ここには出てこないけど、もう一人括弧でいらっしゃるんでしょうか、兼務で。

○藤原主幹 向こうから兼務をかけてもらつており、お手伝い体制はできております。

○上山議長 そのほか何か御質問はございますでしょうか。

ないようですので、それでは、次第のその他ですが、報告事項は一応みんな終わったということで、その他、委員の皆様または事務局から何かありますでしょうか。

その他もないようですので、では、本日の協議会の案件は全て終了したということで、事務局さん、お願いします。

○藤原主幹 上山議長、ありがとうございます。以上で協議会のほうは終了させていただきます。